

佐賀市 21 歴史探訪

こう こう ねん あ み だ じ 洪浩然と阿弥陀寺

「^{こぶこうねん}癩浩然」という言葉をご存知でしょうか。これは豪快で節くれだった書をなすことで有名な「洪浩然」(1582～1657)の異名です。彼は16世紀後半、豊臣秀吉の「文禄・慶長の役」で普州^{ふしゅう}において12歳で孤児となり、朝鮮国に出兵していた鍋島直茂によって佐賀に連れてこられた人です。

鍋島直茂・勝茂親子は浩然の才覚を愛し、佐賀藩士に召抱え、京都に遊学させ、帰藩後はそば近くに置きました。

洪浩然は、李三平など佐賀に来た朝鮮半島からの人々との結びつきの強い、多久家の家臣の娘と結婚し、名実ともに佐賀藩に根をおろすことになりました。

明暦3(1657)年、佐賀初代藩主勝茂は江戸で亡くなりますが、36人が勝茂^{じゆんし}に殉死しました。洪浩然はその中の一人で、彼の殉死の場所は佐賀市木原にある阿弥陀寺でした。殉死といっても異国での死は彼にとってどんな心境だったのでしょうか。

洪浩然の墓は、境内東側にあり、その一族の墓と並んで建っています。この地をお訪ねの際には、洪浩然の波瀾万丈な人生を想ってみませんか。

洪家はその後、佐賀藩士として重要な役割を果たしました。



▲阿弥陀寺全景



▲洪浩然の墓



▲洪浩然の書(佐賀県立名護屋城博物館所蔵)

一口メモ

・この頃、主君の後を追う「殉死」は全国的になされたものですが、勝茂への殉死以後、佐賀藩では幕府にさきがけて殉死を禁止しました。寛文2(1662)年10月のことです。江戸幕府は遅れること約半年の寛文3(1663)年の5月、殉死を禁止しました。
・洪浩然関係の資料は、佐賀県立名護屋城博物館で収集・保管がなされています。同館をお訪ねの際にご覧になってください。

